

日本鉄鋼協会記事

企画委員会

第4回委員会 開催日: 10月12日. 出席者: 河西委員長. ほか 21名.

1) ISO/TC 17 幹事国の件.

現在TC17の幹事国であるイギリスが1979年まで担当することが決定し, 日本が幹事国となるとしても時間的余裕がある. 鉄連に相談し, 最高方針は運営委員会で決定願う.

2) 鉄鋼技術情報準備委員会中間報告の件.

9月19日の委員会の詳細報告がなされた. 予算の中で, 借室料, 人件費の占める比率が大きいため極力節減を計り, 再度予算案を提出することになった.

研究委員会

鉄鋼工学セミナー委員会 開催日: 10月17日. 出席者: 加藤健三委員長, ほか 10名.

1. 委員長交替の件. 加藤栄一委員長から加藤健三委員長に交替され, 新旧委員長より挨拶が行なわれた.

2. 第3回鉄鋼工学セミナー (52年8月22日~26日) 反省の件.

3. 第4回鉄鋼工学セミナーの件.

期日: 53年7月31日~8月4日を予定する.

場所: 蔵王ハイッ予定.

コース: 製鉄, 製鋼, 材料のコースとする.

編集委員会

第8回和文会誌分科会 開催日: 10月14日: 出席者: 長嶋主査, ほか 18名.

1. 19件の論文審査報告がなされ, 修正依頼18件, 掲載決定1件であった.

2. 「鉄と鋼」第64年2号(2月号)に論文13件, 技術報告2件, 技術資料1件, 委員会報告1件掲載決定した.

第8回欧文会誌分科会 開催日: 10月11日. 出席者: 荒木幹事, ほか 5名.

1. 13件の論文につき審査報告がなされ, 掲載可3件, 照会后掲載可6件, 修正依頼4件であった.

2. 「鉄と鋼」63年12号より3件の研究論文, 64年1号アブストラクトより1件の研究論文について投稿を勧誘することとなった. また, 「鉄と鋼」以外の国内誌より1件の Report を依頼することとなった.

共同研究会

鉄鋼分析部会

第51回化学分析分科会 開催日: 8月31日. 出席者: 岸高主査, ほか 39名.

鉄鋼化学分析方法 JIS 案文作成作業を行なっており, 9月現在の進捗状況は次のとおりである.

1. 案文完了成分……Si, Mn, Ni, Cr, Cu, Ti, Sb.

2. 幹事会で審査中……通則, V, Co, Al, As.

3. 分科会に案文提出済の成分……C, Mo, W, B, N, Pb, Nb, Ta, Zr, Te.

4. 共同実験中の成分……P, Sn.

5. その他……C, Se.

第49回鋼中非金属介在物分析分科会 開催日: 9月2日. 出席者: 成田主査, ほか 15名.

1. Fe-Si-N 系試料の追加共同実験

結果は前回とほぼ同様であった. 化合物Nは硫酸-硫酸カリウム-硫酸銅による分解法では完全に分解しない場合があり, このような場合にはアルカリ溶融法の適用が良好であることがわかった. 一応この系の共同実験は終了することにした.

2. 実用鋼を対象とした共同実験

いずれの試料についても比較的良好な結果がえられた. ひきつき Ti 含有不銹鋼, 耐熱鋼を対象とした共同実験を実施する.

3. 炭化物抽出用標準試料

Fe-M-C (Fe-Ti-C, Fe-V-C) 系および不銹鋼の調整を終了したので標準値決定のための共同実験を実施することにし実験方案の概略を決めた.

標準化委員会

第81回幹事会 開催日: 9月30日. 出席者: 島田幹事長, ほか 8名.

1. 工業標準化基本問題

工業標準化事業の現状から, 現時点において解決すべき問題として①規格制定関連とし情報処理などソフト的なものが JIS の対象となりうるか, JIS の制定手続の簡素的, 迅速化の余地があるが, JIS と団体規格の役割の明確化, JIS と取締法規との役割, ②JIS マーク表示制度関連として12603工場もある許可工場の監視, ③国際標準化関連として ISO と JIS との調整, 国際的な任意マークの相互認証制度の設立, 要請のある輸入品の JIS 表示の対応策などの諸問題があるので, 鉄鋼業界としての総意をまとめることにし, 次回以降具体的な検討に入ることにした.

2. 鉄鋼便覧

第4巻鉄鋼材料第1編の目次案について検討し, 第1編編集委員の人選を行った.

ISO 鉄鋼部会

第37回 SC 12 分科会 開催日: 9月13日. 出席者: 三佐尾主査, ほか 8名.

1. 国際会議報告

6月に開催された TC17/SC 12/WG1 及び TC17/SC/12 国際会議の報告があり, 冷延原板による電気亜鉛めつき鋼板のめつき層の厚さに関する宿題について次回検討することにした. また今後審議される C0.25% 以上の狭幅ストリップについては幅 600mm をより拡げることを考慮することになった.

また表面被覆鋼板に関する試験法として、G 3312 及び K 6744 を送付することにした。

第4回 SC 16 分科会 開催日：9月21日。出席者：山南主査，ほか 16 名。

1. 鉄筋用鋼材

第1回国際会議で鉄筋用鋼材の強度が 400 及び 500N/mm² に統一される方向にあるため、日本生産の大勢を占める SD30, 35 の必要性の理由付けについて検討した。土木、建築両学会の現状説明を伺ったが日本は許容応力度法を採用している点から高強度鉄筋の使用は効果的でない。

また、化学成分、機械的性などは Hot, Cold を区分して規定する方が合理的であることを合意した。

曲げ戻し試験は実験要領を作成し共同実験を進めることにした。

2. PC鋼材

EU-138 の日本コメント案について検討したが、アメリカ、カナダの支持をうるための方策を別途考慮することにした。また原案の 95% 保証の考え方については特に異論はなかつたが、他の鋼材規格との兼合いについても今後検討しておくことにした。

.....

第58回特殊鋼分科会 開催日：10月7-8日。出席者：石川主査，ほか 11 名。

1. 構造用合金鋼

SNC, SNCM, SCr, SCM, SMn 及び SMnC, SACM, 6 規格の改正原案及び解説案を検討し最終案を作成した。

2. H鋼

H鋼の改正原案及び解説案を検討し最終案を作成したが、SAE 1977 年版によると Si が 0.1~0.30 となつていたのでその理由を調査することにした。また ASCM 17H は SCM418 に改めた。

3. みがき棒鋼（合金鋼）

現行のみがき棒鋼（炭素鋼）に合金鋼も含めることにし、冷間圧延用合金鋼線については生産量などを調査した上で JIS の可否を決めることにした。

.....

第57回鋼管分科会 開催日：10月5日。出席者：丸岡主査，ほか 15 名。

1. 鋼管 12 規格

最終案について検討し、SGP の水圧代替 NDI の削除、STPG の水圧規定を現行通りとする。STS のシャルピー衝撃試験温度を -10°C, -20°C, -30°C のいずれかとすると修正した以外案通り決定した。

2. 素案概要

素案概要案を検討し、修正案を作成した。

3. 配管用鋼管の標準外径

ISO サイズに移行するための PR として標準化ジャーナルに掲載する原案について検討した。

4. TC17/SC19

TC15 分科会から提議された TC17/SC19 の新設について討議したが現行 TC5/SC1 との線引きが不明確であり、新設するのは問題であるとの意見となつた。

.....

第3回機械試験方法分科会幹事会 開催日：9月27日
出席者：川田主査，ほか 11 名。

1. WG 1 (自動化引張試験) WG 2 (伸び計) WG 3 (衝撃基準片) の活動報告。

2. TC164 分科会の構成員の検討。

3. TC164/SC 3 N4~8 の検討。

4. TC164-SC 1 N4 の検討。

5. TC164/SC 1 及び SC 3 国際会議の派遣。

6. 機械試験方法分科会の議題の決定。

.....

第29回鋼質判定試験方法分科会 開催日：9月27日。
出席者：石川主査，ほか 15 名。

1. 鋼のサルファプリント試験方法

セミ快削鋼の取扱い、試験片の表面粗さの程度、印画紙を浸す硫酸溶液の濃度、印画紙の密着時間、定着液の濃度と時間などについて討議された。

2. 鋼の火花試験方法

書面審議の結果指摘された諸点について検討した。

材料研究委員会

第26回委員会 開催日：9月27日。出席者：金沢委員長，ほか 14 名。

川崎製鉄株(技)術研究所を見学した後同所で会議を行った。焼入れ性の実験結果の解析について報告がなされ、討論が行われた。その結果、

1. オリジナルデータに基づいた、粒度とマルチブライニングファクターとの関係の確立。

2. グロスマン方式によらない解析法

について今後も継続検討し、更に各社で独自の研究を併行して推進することを確認した。又、新規合金系での実験は予定通り進め、従来と同様の方法で解析を行う。

鉄鋼基礎共同研究会

特殊製錬部会

ESR に関するシンポジウム 開催日：9月14日。出席者：後藤部会長，ほか約 110 名。

昭和 49 年 3 月より活動を開始した特殊精錬部会の研究の成果の主なものを公開發表するためにシンポジウムを新丸ビル地下会議室で開催した。研究発表件数は 5 分科会より計 12 件有り、参加人数は約 110 名に達し、活発な質疑応答が行われた。

第1分科会 2件。

第2分科会 4件。

第3分科会 2件。

第4分科会 2件。

第5分科会 2件。

第3回鉄鋼工学セミナー報告

第3回鉄鋼工学セミナーは、昭和 52 年 8 月 22 日(月)夕方講師、受講者が集合し、各コース別のオリエンテーションが行なわれ、23 日(火)から 26 日(金)の 4 日間蔵王ハイッ(宮城県刈田郡蔵王町)で開催された。参

加者は製鉄 23 名, 製鋼 28 名, 材料 24 名計 75 名の受講者に制限された。

4 日間各コースとも講義とそのケーススタディーが朝 9 時より行なわれ, 夕食後は教養講座や, 提起された問題点についての講師をまじえたディスカッションが行な

われた。

本セミナーは, 講師と受講者が 4 日間寝食を共にし, 鉄鋼製造の基礎理論と現場の諸問題を結びつけた集中的な学習会を目的としており, 今回も忌憚のない意見交換が行なわれ, 又受講者間でも交歓を深め終了した。

東 北 支 部 湯川記念講演会開催案内

下記の通り本会東北支部では湯川記念講演会を開催いたしますので, 多数ご参加下さるようご案内いたします。

記

日時: 昭和52年12月16日(金) 13:30~16:40

場所: 仙台市青葉 東北大学工学部金属系三学科大講義室

1. 東京理科大学教授
東京大学名誉教授 橋口 隆吉君
13:30~15:00 格子チャンネルリングによる結晶格子欠陥の同定
2. 新日本製鉄(株)副社長 相原満寿美君
15:10~16:40 新しい製鉄所の建設と操業

17th Annual Conference of Metallurgist and Joint 8th Hydrometallurgical Meeting

1. 期日 1978 年 7 月 27 日~31 日
2. 場所 Montreal, Canada
3. 主催 The Metallurgical Society of the Canadian Institute of Mining and Metallurgy

標記の国際シンポジウムでは, 現在 All areas of Metallurgy に関する論文を広く募集しております。応募される方は, 論文のタイトルと 200~300 語のアブストラクトを 1978 年 2 月 1 日までに下記あてにお送り下さい。また, このシンポジウムの詳細につきましては, 直接下記あてにお問い合わせ下さい。

Dr. D. A. Huggins
Technical Program Chairman,
Copper Refinery,
INCO Metals Company,
Copper Cliff, Ontario
Canada
POM INO

原稿用紙, 合本ファイル有償頒布について

1. 原稿用紙 (鉄と鋼用本文用紙 50 枚・図面用紙 16 枚綴)
 - 1 冊 300円 (〒 160円)
 - 2~3 冊 (〒 200円)
2. 図面用紙 (鉄と鋼用 50 枚綴)
 - 1 冊 250円 (〒 160円)
 - 2~3 冊 (〒 200円)
3. 講演前刷用原稿用紙
頒布料金 1 枚 5 円 (頒布の枚数は下記のとおり限定いたします。なお料金は送料込)

5 枚	225円,	20枚	400円,	40枚	500円
10枚	250円,	25枚	425円,	50枚	850円
15枚	275円,	30枚	450円		

100 枚以上は小包となりますので係までお問い合わせ下さい。
4. 「鉄と鋼」用合本ファイル
 - 1 冊 250円 (送料別)
5. 申込方法 ①原稿用紙の種類, ②枚数, ③送付先明記のうえ, ④料金(切手でも可)を添えお申し込み下さい。
6. 申 込 先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 日本鉄鋼協会 庶務課